

当院での病棟採血開始に向けた取り組みについて

◎加藤 洋平¹⁾岐阜大学医学部附属病院¹⁾

【はじめに】タスクシフト・シェアは、看護師や薬剤師などの医療従事者がそれぞれの専門性を活かせるよう業務分担を見直すことで、医師の負担軽減と同時にチーム医療の水準を上げることを目的としている。当院においても、臨床検査技師に求められるタスクシフト・シェアのニーズは高い。しかし、現状の日常業務時間帯でのタスクシフト・シェアはマンパワーの課題が大きく困難な状況下である。そこで、私たちは早朝の時間帯でのタスクシフト・シェアの病院要望に着目した。

【方法】看護師長以上の50名の管理者を対象とし、対象病棟、派遣人数、早朝採血開始時間等について事前調査としてアンケート調査を実施した。対象病棟看護師30名を対象とし、臨床検査技師による病棟採血に関するアンケート調査を実施した。また、検査部職員31名を対象とし、タスクシフト・シェアに関するアンケート調査を実施した。派遣期間は2023年4月3日から9月30日までの半年間とした。派遣3カ月経過時点で対象病棟看護師30名を対象とし、検査技師派遣後の効果についてアンケート調査を実施した。派遣期間終了後に、対象病棟看護師30名を対象とした臨床検査技師派遣による病棟採血についてのアンケート調査を実施した。さらに、対象病棟への病棟採血実施前後の採血取り直し件数を比較した。

【結果】事前調査結果から、血液内科・消化器内科病棟が最も早朝採血患者数が多かったため、この病棟をパイロット病棟とした。対象病棟からの調査結果から病棟への派遣担当技師は2名とし、基本的には1名を派遣し、もう1人はバックアップ要員とした。派遣後のアンケート結果により病棟採血実施後で患者ケアに対応する時間を大きく確保できていることがわかった。また、実施前後の対象病棟の採血取り直し件数が大幅に改善されており、臨床検査技師がタスクシェアを実施することで看護業務の改善だけでなく再採血の減少により患者負担の軽減に貢献できていることが示唆された。

【まとめ】医師の働き方改革に向けて、2021年10月には臨床検査技師等に関する法律が改正されたことにより、臨床検査技師が行うことができる業務の拡大が行われた。しかし、500床を超える病院では専門化が細分化しており当初の目論みのタスクシフト・シェアの需要は決して高くない。また、日常業務時間帯でのタスクシフト・シェアはマンパワーの観点から調整すべき点多々ある。そんな中、早朝の病棟採血は効果的なタスクシェアの可能性が高い。他には、早朝勤務開始とすることで夕方以降には学術的活動や家庭時間の確保など、多面的な効果を生み出せる可能性がある。今後益々多様化する働き方のニーズの観点からも臨床検査技師による病棟採血は大いに検討の余地がある。本企画では、当院での病棟採血開始に向けた取り組みについて紹介し、今後の可能性について考えたいと思う。